日本山岳會富山支部會報

昭和２３年　棟方志功

No.107

2018 年 3 月 8 日

公益社団法人日本山岳会富山支部

支部創立 70 周年記念海外山行　ブータントレッキング

期日：平成 29 年 10 月 28 日～11 月 8 日
参加者：山田、松本、渋谷、菅田

チョモラリ氷河の 4450m地点にて

　支部創立 70 周年記念の海外山行で国民総幸福量（ＧＮＨ）という価値観で注目されるブータンに出かけることになった。日本と国交樹立してまだ 30 年、かつて秘境ブータンとか神秘の王国と呼ばれ、ゆたかな伝統文化が残るヒマラヤの小国。ブータン第二の高峰チョモラリ 7,314ｍのベースキャンプをめざすのがブータントレッキングでも一番人気のあるコースである。平成２年に県自然保護協会と日本山岳会富山支部合同の「ブータン王国自然調査団」が派遣され、当時の支部会員も数名参加している（トレッキング班には太田、川田、相澤、佐伯久)。あれから 27 年を経て調査団報告書に描かれたブータンが今どのように変貌を遂げたのかも興味のあるところであった。

　ＮＰＯ法人ブータンミュージアム（福井市）のブータン訪問団のメンバーとして「2015 チョモラリ峰ＢＣ踏査隊」に参加された福井岳連の牧野会長からの情報提供をうけ、また鍛治副支部長による現地旅行会社とのメールのやりとりからブータントレッキングの計画は次第に具体化していった。チョモラリＢＣから往路と同じ道を戻るのではなく、ヤクの放牧地帯を踏査し３つの 4,000ｍ超の峠を越えてもどってくる全行程５泊６日のコースで実施することになった。ブータンは外国人観光客の受け入れを政府が直接管理しており、滞在中はすべての手配をガイドが行う。隊員が４人と少ないのは少し寂しかったが、トレッキングとチベット仏教などの視察観光を無事に終え帰国することができた。

　今回のトレッキングの実施にあたってご協力いただいた方々に感謝申し上げます。　　（山田信明　記）

目　次

支部創立70周年記念海外山行　ブータントレッキング
　出発まで、計画書、行動概要、感想　・・・・・・・・・　１～　5
上高地の散策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・島津常樹　5
「五支部合同懇親山行」野坂岳・蠑螺ヶ岳・西方ヶ岳
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・近藤晋・渋谷茂　7
平成29年度年次晩餐会　懇親山行(足和田山・三湖台・鳴沢氷穴)　・・・・・・・・・・・・・・・・・石溪秀満・吉井一美　9
12月例会・忘年会報告　・・・・・・・・・・・・・・・河合義則 11
平成30年度富山支部親睦会総会・新年会・・・・川田邦夫 11
入会のご挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・讃井啓介　12
有澤辰彦氏　弔辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山田信明　13
平成29年度全国支部連絡会議の概要
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山田信明　14
支部創立70周年記念事業の開催案内
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・松本睦男　14
会員動向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
山行計画等案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
　編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・渋谷茂　16

日本出発まで

2 月 4 日　鍛治副支部長（海外記念山行担当）からブータンの計画について実行委員宛てにメール（福井岳連隊、旅行会社のウェブサイトからの情報）

2 月 11 日　鍛治・山田で福井市のブータンミュージアムを訪問、福井岳連の牧野会長から案内がてら岳連隊の情報提供を受ける

3 月 2 日　支部役員会の席で鍛治からブータントレッキング草案提示

4 月 3 日　プレイヤーフラッグスツアーズ（現地の旅行会社）の表雅子氏に問合せ（鍛治）
表氏からジョモラリ・ヤクシトレッキング案と見積書が届く

4 月 6 日　支部役員会　表氏提示案で参加者を募りツアーのアテンドを表氏に依頼することに決定

4 月 12 日　支部総会の席上計画を説明し参加者を募集

4 月 27 日　「ブータン旅のしおり」が届く。ドゥルックエアーの予約（4 名分）完了

6 月 30 日　支部会報 105 号にブータントレッキング募集を掲載。

7 月 5 日　パスポートの顔写真ページのカラーコピーと旅行申込書（4 名分）を送る。西岡記念館見学の日程への組み込みを要望（鍛治）

8 月 24 日　旅行代金請求書が届く（合計 12,450 ドル）

8 月 28 日　4 人分の旅行代金を一括外国送金（松本）

9 月 26 日　木戸自工 2Ｆで打合せ。名古屋―バンコクの往復チケット代を支払い

10 月 10 日　バンコク―パロ往復のｅチケット、ビザクリアランスが届く。

10 月 23 日　ドゥルックエアーの往きのフライト時刻が約 2 時間遅くなり、初日のスケジュールを変更と連絡あり。変更後のｅチケット届く。

10 月 24 日　支部役員会で計画書配り説明。支部より餞別。新富観光の中西氏からタイ航空のｅチケット受取。北日本新聞社会部記者の取材受ける

ブータントレッキング計画書（抜粋）

目的　・ブータン第 2 の高峰チョモラリ（7,314m）のベースキャンプを巡るトレッキング
・僧院や博物館等の見学、西岡京治記念館の視察
・ブータンの歴史・文化・生活に触れ交流を図る

1. 期間　平成 29 年 10 月 28 日（土）～11 月 8 日(水)

2. 行先　ブータン王国　富山～名古屋駅～名古屋国際空港～バンコク空港（タイ）～パロ空港（ブータン）で往復　ブータン滞在 9 泊 10 日

3. 日程　別表ツアースケジュールのとおり(省略)

4. 隊員

ＣＬ	山田　信明	(68 歳)	富山県小矢部市下後亟 791	0766-61-3010	
ＳＬ	渋谷　茂	(69 歳)	富山県小矢部市桜町 241	0766-67-3646	記録
	松本　睦男	(74 歳)	富山県射水市戸破 1879	0766-56-2108	会計
	菅田　靜子	(59 歳)	富山市水橋上桜木 203	076-478-1084	医療

5. 旅行費用（1 人当たり）
・名古屋-バンコク往復航空券（タイ国際航空）　62,670 円

・ブータン手配代金 9 泊 10 日（バンコク-パロ往復航空券含む）　3,040 ドル、
ブータンビザ・観光税　50 ドル　　送金手数料含め　計 344,342 円
・他に名古屋国際空港までの往復交通費、名古屋・バンコクでの食事代、海外旅行保険、現地スタッフへのチップ、土産代等

6. 国内連絡先

鍛治　哲郎（副支部長）　938-0801 黒部市荻生 70

＊現地連絡先、ツアースケジュール、トレッキングルート概念図は省略

12 日間の行動概要

月　日	曜	行動概要	宿泊地
10 月 28 日	土	小矢部高速バスターミナル―名古屋駅前―中部国際空港	機内
10 月 29 日	日	中部国際空港発―タイ航空 TG647―バンコク空港着 バンコク空港発―ドゥルックエアーKB151―パロ空港着	ナムセ・チョリン・リゾートホテル
10 月 30 日	月	タクツァン僧院（3,100m）へトレッキング。ブータン最古の寺院キチュ・ラカン拝観。レストランで昼食後パロ市街、野菜市場を見学。パロ・ゾン（県庁兼寺院）見学。農家ホームステイ（ゴ・キラ試着体験、石焼き風呂、家庭料理等）	同上
10 月 31 日	火	専用車でトレッキングの出発地点シャナ（2,890m）へ移動。SHINGKHARAP（3,059m）―チベット国境テモ・ラ分岐―キャンプ地（3,495m） 登り 685m　約 21ｋｍ　6 時間 50 分	テント泊
11 月 1 日	水	キャンプ地―タンタンカ（3,594m）―TIKITHANG―ジャンゴタン（4,044m）チョモラリのベースキャンプ到着 登り 470m　約 18ｋｍ　6 時間 45 分	テント泊
11 月 2 日	木	ジャンゴタンで連泊。チョモラリ氷河方面へハイキング。 登り 406m、下り 406m　4 時間 25 分	テント泊
11 月 3 日	金	キャンプ地―ツォフ湖（4,350m）―ボンテ・ラ峠（4,890m）―チョラパン（3,800m） 登り 850m、下り 1,100m　8 時間 35 分	テント泊
11 月 4 日	土	キャンプ地―タクルン・ラ峠（4,540m）―タンブイ（4, 120m）　キャンプ地そばのヤク放牧小屋で休憩・夕食 登り 740m、下り 420m　約 11ｋｍ　6 時間 5 分	テント泊
11 月 5 日	日	キャンプ地―トンプ・ラ峠（4,270m）―グニツァワ（2, 870m）　専用車でティンプーへ移動 登り 150m、下り 1,380m　約 14.5ｋｍ　5 時間	ホテル・プンツォ・ペルリ
11 月 6 日	月	ティンプー観光。メモリアル・チョルテン（記念仏塔）―ティンプー大仏。中華レストランで昼食後伝統技芸院―デチェン・ホダン（初等仏教学校）―ジュンシ製紙工房―表さん宅	表さんのアパート（ホームステイ）

11 月 7 日	火	専用車でパロへ移動。西岡記念館、西岡記念仏塔を見学。レストランで昼食後パロ空港。ドゥルックエアーKB120 便でコルカタ経由バンコク空港へ。	機内泊
11 月 8 日	水	タイ航空 TG644 便で中部国際空港へ。名古屋駅前からきときとライナーにより小矢部高速バスターミナル（解散）	

詳しい行動記録については紙面の関係で割愛しますが、70 周年記念誌にトレッキングの記録が 6 ページに渡って掲載されます。また私家版報告書(全 24 ページ)も参照されたい。　　（山田信明　記）

ブータン王国の旅を振り返って

松本睦男

平成の初めに「桃源郷のブータン」という新聞の記事を見てから何時かは行ってみたいと思っていたのが漸く実現することが出来た。その時の新聞の記事の場所は何処であったか覚えていないが、高山植物が咲いていて渓谷があって、そこで寝転んで時を過ごしたいと思うような場所であった。

今回は花の時期とはずれていてブータン特有の花をみることが出来なかったが、チョモラリ・ベースキャンプ、ツォプ湖、ボンテラ峠を越えてのトレッキングは満足であった。ブータン仏教の聖地、西岡京治記念館、野菜市場、農家での石焼き風呂、ホームステイなど多くのブータンの文化にふれ、生活を体感することが出来た。日本と比較することは出来ないが、その中で「世界一幸せな国」を目指す国の一面を感じることが出来た。まだ一部しか見ていないので、何度でも訪ねたくなる国であった。

菅田静子

幸せの国ブータンに 10 月の終わりから 11 月初旬にかけて行ってきました。降り立った空港は想像していたのとは違って小さくてかわいく、異国情緒満載でした。ホテルに行く道すがら目に飛び込んできたのは赤いトウガラシで、ところ狭しと屋根一面に干してあるのを見たときはすごい昔にタイムスリップした気持ちになりました。牛も馬も犬も普通に道を歩いており、昔懐かしい田園風景を彷彿とさせてくれました。

トレッキングのことで話すなら、馬が荷物を運んでくれるとはいえ、5000 メートル近い峠に自分の足ではたして登れるのだろうか、トイレは？、食事は口に合うのだろうか等、いろいろ考えると不安なことばかりで、楽しむ心の余裕もない状況でした。ひたすら歩く毎日で、辛いなーと思うことの方が多い山行でしたが、振り返ると楽しかったことしか思い浮かびません。今回嬉しかったのは、トレッキングだけでなく、生活している人たちと触れ合う機会があったことです。自然の恵みをそのままいただき、辛いであろうことも楽しみに変えることのできるやさしく奥ゆきのある人々に出会えたことに感謝。

そんな生活がうらやましくもありましたが、このようなきびしい生活が出来るかといえば難しい。非日常から日常に戻り、今もせわしく動いている自分を思うとき、ブータンで流れた時間を思い出すたび再び行きたいと思える国となりました。次回は満開の花の季節や松茸が食べられる季節に行きたいですね。

渋谷　茂

ブータンの最高峰は 7,570m のガンカル・プンスムで未踏峰だ。神の座への思いは篤いものがある。標高 200m 前後から 7,000m を超える高峰に囲まれたブータンは稀有な自然環境が広がる。花の時期ではなかったが、高山地帯に咲くリンドウの仲間に癒されるトレッキングだった。ケシの花が咲き乱れる時期に再訪したいものだ。ブータンは仏教の理念に即した社会を目指す。ブータンの仏教はチベット系仏教であり、大乗仏教とも称する。その基本は慈悲の精神である。「健全な社会生活」を送るには、「四無量心」、「人に楽を与え

る」慈、「人の苦しみを無くする」悲、「人の喜びを自分の喜びとする」喜、「恨みを捨てる」捨の四つの心が必要であるとされる。（『ブータン仏教から見た日本仏教』（今枝由郎　NHK ブックス　ブータン王妃アシ・ドルジ・ワンモ・ワンチュック陛下の講演）この精神が日常に息づいていることを感じた。道中での私の心配事は、ボンテラ峠（4,890m）越えであった。お陰様で高山病にはならなかった。辛いもの好きで食事は口にあい、トレッキング中は体調は良かった。素晴らしい旅、お世話頂いた鍛冶さんはじめ山岳会、隊員の皆さんに感謝を申し上げる。

山田信明

ブータンは九州ほどの小さな山国であるが、われわれが訪れたのは西部の狭い範囲に限られる。かなり奥まで車道が通じておりトレッキングの出発地は 2,890m。標高の高い地点から歩き始めるので高度障害の心配があった。チョモラリ BC に着いた頃には、頭痛はないものの食欲もあまりなく、ここからは 4,000m台の雪の峠越えがあり、次のキャンプ地までの距離も長くなかなかハードなものだった。テント泊や食事の世話をしてくれた 7 人のスタッフと他の隊員のお蔭で歩き通すことができ、思い出多い 5 泊 6 日のトレッキングだった。夏から秋のヤク飼いのための石積みの小屋があるだけ、山また山の辺境の地。そんなところでもスマートフォンを使いこなす人たちに感心した。ブルーポピーの咲く頃にぜひまた訪ねてみたいものだ。

ジチュダケ(6,809m)をバックに

上高地の散策

期日：2017 年 10 月 14 日（土）～15 日（日）

参加者：山田、近藤、松本、鍛治、金尾、本郷、渋谷、島津、河合、森田、瀬川、讃井

上高地の“山研”へ集まり、いっぱい飲み翌日は奥又白まで行ってはという鍛治さんのお話で、結果的に 12 名が 4 つのグループにて集まった（16 時集合）。

奥又白は前穂東稜の登攀基地（特に冬）であり、8 月に早月尾根を歩いた折に私は団体行動できる脚力には回復していないと判断した（老化するだけ？）。

奥又白へ行く人、行かない人、霞沢岳を目指す人、ゆっくり辺りを散策する人とそれぞれの予定である。私の目的は嘉門次小屋にて岩魚の塩焼きを肴に一杯飲むこと。そして讃井氏が近藤さんを頼って九州から出てくるというからである。

メンバーの状況は、14 日、鍛治、松本、金尾、森田の 4 名は買い出しをして上高地入り、その後岳沢方面へ散歩。本郷、渋谷、瀬川の 3 名は、到着後明神方面へ（16 日は霞沢岳を予定）。近藤、讃井（福岡県在住）の 2 人は、13 日より山研滞在。そこへ 14 日島津が合流。山田、河合の両名は茨城の全国支部懇談会から直行する。

私は 11 時には合流したいと小矢部ＩＣを 7 時 20 分に乗る。飛騨清見ＩＣから高山を経て下道に入り（トンネルばかりの道は好きではない）、ようやくのんびりと走れる。平湯の峠辺りは雲がかかっている。ライ

トを点け２速で高回転音を楽しみながら走る。残念ながら紅葉はさほどではないが、トンネル道の高速よりも下道のほうが楽しい。

平湯のアカンダナ駐車場に 9 時 20 分着。“神の湯”は営業してはいなかった。駐車場はガラガラに空いていた。9 時 50 分発のバスに乗車する。上高地に着くと気温は 14 度、曇り空。岳沢辺りの紅葉もどうもすっきりとはしていない。梓川に沿って歩く。河童橋の周辺は相変わらずの賑わいだが夏場ほどではない。10 時半過ぎに橋の袂で合流する。穂高の山並みの見える川岸のテーブルに座り、讃井氏とブランデーにて久方ぶりの再会の会話を交わす。彼は近藤氏とは 10 年程前からの付き合いである。立山で知り合い、以後山やスキーそして会の行事に参加している。（私とは何回会っただろうか）しかしながら近藤さんもいつまで付き合いができるか分からないため、私は彼に一人にて上高地で遊ぶ方法を話した。

11 時 20 分、嘉門次小屋にて岩魚を肴に飲もうと明神を目指す。ついでに小梨平キャンプ場と食堂やお風呂を紹介した。夏場と異なり、この時刻のテント数は少なかった。（そうでしょう、10 月になると夜は本当に寒いから。）メインストリートにもどると流石は天下の上高地、時期が時期だけに行きかう人も実に多い。ファションも言葉も様々である。梓川には岩魚の姿もみうけられる。以前、釣好きの知人から「上高地の岩魚はほとんどが混血だから全国から釣り人を集めて全部釣り上げてしまい、本岩魚を放流すれば良い。」との話も聞いた。どのみち禁漁区なのだが。明神橋を渡るのも久しぶり。昼頃でもあり、嘉門次小屋は満員だが、すっかり変わっていた。囲炉裏を前に杯を手にという風情はなくなったが、岩魚はよく焼きあがっていて頭からかぶりつく。酒の付き出しの蕗の薹の味噌和えが美味しい。時間が瞬く間に過ぎていく。

さて、同じ道をほろ酔い気分でのんびり引き返す。山歩きスタイルの団体や観光客と行交うが、こんな時間にどこまで行くのかと気にかかる。小梨平を通るとテントが 5 張り増えている。何年か前から小梨平キャンプ場では焚火が禁止されている。暗闇の中、焚火を前に時を過ごすのは、なんともいえない風情があるものなのだが。河童橋辺りは人の姿も減り、趣のある風情に戻っているが気温はだいぶ低くなったようだ。

15 時 40 分、山研に到着。山研のベランダの手すりも修理され、寄りかかっても大丈夫。階段横のイチイの木は大きく実もついている。酒がテーブルにたくさん並んでいる。誰がこんなに飲むのだろう？荷物は鍛治さんの車で運んだとか。厨房ではタラ汁作りの真最中で森田、瀬川の二人が奮闘している。16 時半をまわると、やはり山の中、山研の周りは夕闇につつまれる。支部長から連絡が入り、到着は 18 時頃と予想された。全員が揃うまでグラスを手に雑談が繰り広げられる。その中で来年の 9 月の平日に近藤氏の剱岳一般コースからの米寿記念山行（2 泊 3 日）が話題になった。個人的山行になるのか例会山行になるのか来年度の計画で決まるだろう。剱岳は多くの方があこがれる。しかしながら米寿での剱岳登頂を私は知らない。

18 時に 12 名全員が揃い、小屋の管理人・元川夫婦と一緒に宴会の始まりである。奥様は素敵なお方です。讃井氏より正会員への入会希望の旨、発言があった。とにもかくにも、ありがとう！翌日の天気が話題になり、行き先の変更が検討される。最後は飲み疲れた者から順に 2 階に上がって床に着く。

さて 15 日の朝。天候は小雨（明日は大雨の予報）。朝食は卵掛けご飯に昨日のタラ汁と漬物。ニシンの麹漬けが残っているかと思いきや、“酒の肴にピッタリ”で美味かったとのこと。（持参者本人の口には入らなかった）

福地山に行き先を変えた 3 名のグループは雨で登るのを中止し帰宅。徳澤方面への 5 名は 7 時過ぎに出発した。1 名はビジターセンターへ。そして近藤、讃井と私の 3 人は大正池まで散策し飛騨古川で昼食を取って帰ることにした。梓川の右岸はマユミの木が実に多い。ピンク色の実をたくさんつけている。だがカラマツの色付きはサッパリだめ。茶色と緑が混じっている。

しかしながら上高地をこれほどゆっくりと散策するのは初めてかもしれない。槍や穂高への通過点だったり、家族でのキャンプか、徳本峠や西穂へのベースだったりして。私は６年前から３年間小梨平にテントを張ったこともある。小雨の中、朝の早い時間はさすがに人が少ない。荷揚げのヘリが騒がしく活動している。西穂への登山口から橋を渡り、大正池方面へ向かう。爺様３人の散歩、ちと侘びしいかぎりである。

追記：後日、讃井氏より入会申込書の書面が近藤氏に届いた。　　（島津常樹　記）

上高地山岳研究所前で

「五支部合同懇親山行」野坂岳 913.3m 蝶螺ヶ岳 685.2m 西方ヶ岳 763.8m

期日:平成 29 年 11 月 11 日（土）～12 日(日)

参加者:山田、本郷、渋谷、近藤

今回の五支部山行の参加者４名は８時山田支部長宅へ集合し本郷車で敦賀へ車を走らせた。生憎の雨模様で西風も強く加賀の海岸線には白波が砕け散っていた。10 時野坂岳駐車場へ着いたら岐阜支部の白木さん達４名に福井支部の方が５～６名、そのうち出発時刻の 11 時には全部で 15～16 名になり登山開始となった。

登山口は標高 200m、青少年の家があり林間広場の松林にロッジやキャンプ場もあり結構整備されていた。私が敦賀勤務の頃（1960）この辺りに小さなスキー場があって数回滑りに来たことがあったが今は植林されその面影もなかった。

11 時、頂上まで２時間 20 分と書かれ薄汚れた標柱の横から登りだした。晩秋の山の木々はすっかり葉を落とし登山道は枯葉に埋まりカサコソと秋の調べを響かせていた。500m 辺りから明るいブナ林となってきた。時おり小雨がぱらついたが雨具をつけるほどでなく一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳、四の岳の標柱を過ぎると別名敦賀富士の頂上だ。この山も弘法大師伝説があり途中にトチの木地蔵と水場、また風化した花崗岩の巨岩は行者岩と名付けられ、頂上には野坂嶽権現が祀られているという。

大した急登は無いが最初のペースが少し早く皆は先に行ってしまったが、少々草臥れた私と高木岐阜支部長、写真を撮りながらの森田福井支部長に山田支部長の４人は１時 20 分すぎ一応コースタイムどおりで頂上へ到着した。頂上の広場からお天気が良いと白山も見えるとのことだったが今日は隣の滋賀県の山々が見えるだけだった。振り返ると敦賀湾が一望できた。頂上の広場に一等三角点の標石があり一期一会の想いでそっとその頭を撫でてきた。ここに避難小屋があり皆でランチタイム。２時ごろ風も冷たかったので早々に

下山し今晩の懇親会場ニューサンピア敦賀へ入った。

5 時 30 分から福井支部、田路茂雄会員による「7 サミット＋2」と題してその登頂記録の DVD と解説が行われた。6 時懇親会に移った。最初に森田支部長挨拶では宮本前支部長の葬儀にも触れられた。乾杯の音頭は末期高齢者ということで私に指名された。締めには次回の山行担当京都滋賀支部長が挨拶をされた。6 テーブル、各 6 名で各支部持ち寄りの銘酒も多かったが平均年齢も大分高くなってきた故か沢山残っていた。2 時間ばかり山男たちの楽しいひと時を過ごし別部屋の二次会は富山支部は参加せず全員ダウン、すぐ鼾をかいてしまった。（近藤　晋記）

野坂岳駐車場にて出発式

野坂岳のブナ林を登る

五支部合同懇親山行二日目。今日は蝾螺ヶ岳から西方ヶ岳へ、敦賀湾を見ながらの縦走である。近藤さんは常宮から西方ヶ岳登山。お宿の「ニューサンピア敦賀」のマイクロバスで浦底まで。登山口入口手前が工事中で登山口が見つけづらかったが、蝾螺ヶ岳まで 3.0K の看板があった。雲が多かった空も青空がみるみるうちに広がってきた。登山道脇にはウラジロがたくさん生えている。名前の通り葉の裏は白い。お正月の飾り物の定番でおなじみのシダ植物である。落葉が降り積もった登山道の感触は晩秋の登山の魅力の一つ。音の感触と靴底から伝わる柔らかい葉の感触を同時に感じながら歩く。山頂 2.5K「水島がよくみえます」の看板がある場所に登ってくる。敦賀湾に突出した半島の付け根に水島が浮かんでいるのが見える。海のコバルトブルーと青空とのコラボレーション、色づき始めた木々の色づき、穏やかな雰囲気の晩秋の景色である。

登り坂はまだまだ続く。アカガシやリョウブ、ナツツバキなどが生育している落葉広葉樹が主体の森である。大きな岩があちこちにゴロゴロしている。長命水まで 200m、山頂まで 1.5K の看板がある。登ること約一時間が過ぎた。水場までひと踏ん張りする。ナツツバキの黄と茶の斑の樹肌、黄色く色づいたコアジサイの黄葉は、株によって色づき具合は一様でなくそれは美しい。浦底から 1.7K 長命水に着いた。清水が湧いているのを想像したが、少し下ったところに小沢が流れている。枯葉が辺りを敷き詰めて、沢はコロコロと優しい瀬音を奏でて流れる。仲間がナメコを見つけて「ナメコ採り」に興ずる。あちらこちらで真紅に紅葉したカエデが、樹林帯に色を添える。ドウダンツツジの葉色のグラデーションはなかなか見事である。ブナの木々も見られるようになる。巨岩を潜り抜けて一枚岩から敦賀湾の眺めを堪能する。海は穏やかである。少し下ってやがて蝾螺ヶ岳に達する。尾根に巨岩が並び、岩が点在する様子が貝の「蝾螺」の殻の突起を想像させることからの名の由来だろうか。地元の山岳会の仲間に聞き洩らした。ウィキペディアによると「越

前若狭地誌」によれば、山名の由来は、「山頂付近の岩石群がさざえの殻のようにごつごつした形をしているから、あるいは山腹からさざえの殻が出土したから」という。

蝾螺ヶ岳から西方ヶ岳に向かう。周囲はブナの木が多くみられるようになる。ブナの木は葉を落として、明るく柔らかい秋の陽光が射しこむ。登山道はとても歩きやすい道である。何組かの登山者と行き交う。前方には西方ヶ岳が聳えている。途中でカモシカ台に立ち寄る。カモシカ台の由来は、「昭和 31 年に敦賀山の会がここでカモシカを発見した」(『新・分県登山ガイド〔改訂版〕19 福井の山』山と渓谷社)ことに由来する。巨岩の周囲には登山者が昼食の最中。岩の上からの展望も抜群である。登山道に戻り、ブナの灰色の樹肌に陽光が当たり白々と輝いている光景を見ながら登って、西方ヶ岳頂上に着く。多くの登山者が憩っている。先に頂上に着いていた近藤さんと合流する。三角形の避難小屋はリニューアル中で使えない。近くの岩場からは、敦賀湾や若狭の山々などが一望できる。陽光を一杯に浴びて昼食のおにぎり弁当を頂く。

蝾螺ヶ岳を望む

西方ヶ岳から登山口の常宮に下る。ブナの林の中の穏やかな道が続く。コハウチワカエデの赤色、ナツツバキとブナの輝く樹肌、山々は冬ごもりの最後のドラマを力落ちつつある晩秋の陽とともに演じきる。言いしれぬ感動を覚える。標高 580m の場所にオウム岩がある。下方に「聞く岩」があることからおうむがえし(鸚鵡返し)の意からだろうか。傾斜もきつくなり銀名水まで下ってきた。岩の下からは水が湧き出ている。ここで頂上から登山口までの約半分の距離である。

幾分傾斜も緩くなり、平坦な広い道を進む。高圧鉄塔の横を過ぎて、途中に奥ノ院展望所があるが立ち寄らずに下る。湾の一角を取り囲むように常宮の家並みが連なっているのが見えてくる。登山口は近い。田んぼ道に出た。ユズが鈴なりに実をつけている。常宮神社の前にマイクロバスが待っていてくれた。ブータンでの疲れが気にかかっていたが、体調もよく登山中は終始海を見ての登山で、「海と山」を存分に楽しんだ。

(渋谷茂　記)

平成 29 年度年次晩餐会　懇親山行(足和田山 1,355m・三湖台・鳴沢氷穴)

12 月 2 日はちょうど勤務先の忘年会の日でしたが、それを躊躇なくキャンセルして皇太子殿下のご出席も期待して年次晩餐会の申込をしました。なにしろ初めてのことであり、本郷氏にいろいろご教示いただきながら、また、河合氏にご迷惑をおかけしながら、もたもたと申込や搭乗券、宿泊の手配をして、ワクワクドキドキしながら当日を迎えました。

富山支部からは、山田支部長をはじめとする総勢 11 名の参加でした。そのうち、瀬川富士夫さん、吉井一美さんと私が新入会員として初めて参加させていただきました。

当日はこの時期としては富山も暖かでしたが、東京は快晴でとても暖かく、街路樹に残る紅葉も照り映えて、さらにウキウキしながら会場の京王プラザホテルへと向かいました。会場ロビーにはクリスマスツリーの飾りや着飾った結婚式帰りの若者たち、また和服のご婦人方、外国人など、独特の華やかさにあふれており、さらにテンションが上がっていきます。早めに受付を済ませ、臙脂色の山岳会ネクタイを購入し、早速

それを着用してまずは山岳写真展、図書交換会の会場に向かいました。まず入り口正面には皇太子殿下のアイガー北壁の写真が特別展示として飾られており、多くの人だかりができています。中に入ると、それまで単独行で少し緊張して不安であった私は、そこで富山支部から参加の皆さまとお会いしてほっと安堵しながら、少し気持ちを落ち着けて見て回ることができました。

晩餐会は本館コンコードボールルームで行われましたが、53 テーブル 500 名を越える会場内はただただ壮観なものでした。折しも前日 12 月 1 日に皇室会議が催され、天皇陛下の御退位及びそれに伴う皇太子殿下の御即位に関する意見決定が公表されました。国民マスコミの関心が皇室に集中しており、無用の混乱を避けるご配慮もあってか、残念ながら皇太子殿下のご出席は叶いませんでしたが、披露されたお言葉からは出席できず残念との殿下のご誠実なお気持ちが拝察されました。

晩餐会参加者全員集合

テーブルは半数ほどが富山支部からの参加者であり、またテーブルマスターの適切な指示もあり、ドギマギしながらも楽しく夢のような時を過ごすことができました。また、新入会員紹介として、壇上に上がらせていただいたことも晴れがましい思い出の一つです。

この年次晩餐会の詳細は、会報「山」12 月号に掲載されておりますので、そちらに譲ることといたします。このたびは素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。

（石溪秀満　記）

懇親山行

期日:平成 29 年 12 月 3 日(日)

参加者:本郷、渋谷、河合、森田、吉井

新宿駅西口から地下道を進み、工学院大学ビルを地上に上がった所が集合場所でした。天気は曇り。7 時 50 分集合。バスは 8 時過ぎに山梨県に向けて出発しました。途中、石川 PA と谷村 PA でトイレ休憩の後、10 時過ぎに登山口のある一本木バス停付近で下車しました。10 時 30 分獣柵を開けて登り始めました。落葉に覆われた木階段の道をゆっくりジグザグに約 400m 登り、1 時間 10 分程で尾根道に出ました。風が冷たく、

足和田山山頂

三湖台から富士山を望む

河口湖が見え、10 分程登ると足和田山(1,355m)に着きました。富士山が見える展望台櫓があり交代で上がり写真を撮ったりしました。足和田山はかって富士五湖が見渡せたことから、五湖台と言われます。

足和田山から三湖台(1,202m)まで 2.6km。尾根を巻く幅広の道を下りました。三湖台から富士山、南アル

プス、御坂山系の山々、天子山系の山々が見渡せました。ここから見える青木ヶ原の樹海の広さに圧倒され、三湖台から紅葉台、鳴沢氷穴へ向かいました。樹海の中を歩いて 14 時 30 分頃着きました。ヘルメットを被って今度は洞穴めぐりです。鳴沢氷穴は富士山の溶岩洞穴で、寒く、狭い。約 15 分歩きました。15 時 10 分にバスは新宿駅西口へ向けて出発しました。無事 17 時 30 分頃に到着しました。

80 名近い人数の山行をお世話され、成功させた山行委員会の皆さまに感謝いたします。

（吉井一美　記）

12 月例会・忘年会報告

12 月 7 日富山駅前 CiC3 階の富山市民交流館学習室において 12 月例会を開催しました。来年は富山支部創立 70 周年という節目を迎えるにあたって各種の記念事業を計画しました。その記念山行として 10 月 28 日～11 月 8 日に実施したブータントレッキングの報告を山田支部長からスライドを交えて行いました。参加者は 18 名と若干少なかったのですが、とても興味深い内容で美しい山並みと日本に似た景色もあれば、全く異なる景観とが交錯した内容でした。トレッキングといっても標高 4,890m まで上がったとのことで高度順化等大変な事もあったのかと想像できました。乾季ということで天候も安定し、ベストシーズンの山行だったということです。ブータンはこのような外国人トレッカーを受け入れていて一日 250 ドルで食事やキャンプ等の必要な事はすべて現地スタッフがセットしてくれるそうで、外貨獲得の手段として位置づけられているとのことでした。

その後、慌ただしく場所を変えて居酒屋での忘年会となりました。少し会場が狭かったかと思いますが、会員同士仲睦まじく今年の山行の話や近況等で和やかな交流の場となったようです。今年の全国支部懇談会の会場が北海道大雪山の層雲峡・黒岳ということで、参加者を募って新千歳空港からレンターカーで移動しようかとか、3 月の 70 周年記念式典についての話題や記念誌発行の準備段階の話題等で、盛況でした。富山県全域から会員が集まってきているため最後は流れ解散のようになりましたが、今年一年充実した活動ができたことと来年への期待を込めて、笑顔で年末を迎えることができました。来年もよろしくお願い申し上げます。

(河合義則　記)

平成 30 年度富山支部親睦会総会・新年会

平成 30 年 1 月 22 日(月)

場所：立山国際ホテル

参加者：木戸、平田、山田、近藤、永山、渋谷、本郷、川田、島津、鍛治、森田、河合、浦井(直幸)、浦井(正子)、瀬川、金井（16 名）

平成 30 年度支部親睦会の総会及び新年会が、例年のように立山国際ホテルで開かれた。予報通り、午後からはかなり激しい降雪となったが、参加予定者はほぼ順調に集まった。各人は割り当てられた部屋に分散して、風呂に行ったり、部屋で少々のアルコールを飲み始めたりしてくつろいだ。

17 時に一つの部屋に集まり、総会が始まった。行事や会計の報告があり、今年米寿に当たる近藤さんと今回欠席されたが、喜寿に当たる村上さん、辻さんには紅白の菓子が先だって郵送した旨の報告があった。18 時より宴会場に移動し、新年の祝賀会が行われ、20 時過ぎに終了。その後、一つの部屋に集まって二次会となり、楽しい一時を過ごした。

翌日は強風雪の予報であったため山行は中止となり、朝食後ホテル前で集合写真を撮り解散となった。

（川田邦夫　記）

入会のご挨拶　足手まといではございましょうが　　九州博多　讃井啓介

…　遠方から入会させて頂きました

『どうしてまた遠いのに…』と不思議にお思いの方もございましょう。

話は平成 14 年の 9 月に遡ります。山好きの仲間と立山にお邪魔致しました。私にとって 3,000m のしかも一流の山というのは初めての事でした。その時に室堂山の展望台で皆様のお仲間であらしゃいます近藤晋氏(以後、師匠と呼ばさせて頂きます)と出会った事が「ことの始まり」であります。

その 1 年後、もらった名刺を頼りに「どこかの山に案内してもらえませんか」と厚かましいお願いをして、連れて行ってもらった所が西穂高岳と上高地でした。それ以来、年に 2 回程、今日に至るまで高岡詣でを致しております。何となく馬が合ったのではないかと勝手に思っています。剱、奥穂、白馬、立山（ここは数知れず)、中山、焼岳、徳本、岳沢、高落場、医王山。白山は未遂に終わりましたが、スキーでも妙高杉ノ原に妙高赤倉と連れて行ってもらいました。師匠のご当地御舎弟（私が勝手にそう呼んでいます）島津さんにもチョイチョイお付き合い頂いております。

平成 26 年 5 月には師匠とのお付き合い「10 周年記念」という事で九州福岡に御出陣を戴き、大分県の由布岳から始まり、湯布院温泉で祝杯をあげ、三俣山の本峰を踏み平治岳のミヤマキリシマを遠望してもらい、ラムサール条約に登録された「坊ガツル湿原」に隣接する、法華院温泉に泊まり、翌日は久住山の頂上を極め、噴煙立ち上る阿蘇山へ足を伸ばし、最終日には太宰府天満宮で俗世の汚れ落としのお祓いを受け高岡にご帰還頂きました。そのようなお付き合いでございます。然るに、平成 29 年は「今年の山はどがいするがやちゃ？」という事で、年初、春、そして夏を過ぎてからも行先が決まらないままでしたが、9 月になって「JAC が 10 月の山行で上高地に「はいる」ゆうがいに、それにおじゃましょ」との連絡がありました。痩せた鶴のその一声で今年の山の行き先が決まったわけでございます。

『天からの声に導かれて…』

10 月 13 日金曜日、皆様が上高地の山研に到着される昼前の事でした。河童橋のベンチに痩せ気味の爺っ様とザックにブランデーをしのばせた屈強なおっつぁんと、はるか遠くからやって来たと思われる物好きな眼鏡のおっさん 3 人が雑談しておりました。そこに降ってわいたような天の声。「そがいチョイチョイ高岡に来て、ほんで上高地まで足を延ばすんなら、2500 円で上高地に泊まれる方法を教えるガイに…日本山岳会に入るがいちゃ…」。一瞬唖然。「あちゃ～そんな手があったとか…」。まさに天の声でした。師匠はこんな妙案を付き合って十何年にもなるちゅうとに、教えてくれんやったとですよ。思考の方がそろそろやばいのではないかと思います。「善は急げ」という事になってその日の夕食時に「入会希望者紹介」にまで話が進んで行ったのであります。お口添えを頂いた師匠、紹介者になって戴いた山田支部長、島津さん（天の声と紹介者の二役）有り難うございました。本部の方からはまだ正式な書類は届いてはいませんが、富山支部

の方からは「70 周年記念協力金」の振込用紙が早速送って参りました。「こりゃ支部の会計は赤字じゃないとかいな」とチト心配になりましたが、支部会員としてお認め頂いたものだと良い方に解釈しております。

話は変わります。師匠が来年は米寿の記念に「剱に登るがいに」と息巻いておいでです。個人的には「血迷うたか師匠！」と思う所ではありますが、山研での夕食時、皆さんの「熱きサポート体制」を伺いまして、九州の舎弟と致しましても、「黙っておく訳にはいかんがやちゃ」と思っている次第でございます。

正式な入会手続きが済みましたなら改めて支部事務局の方へはご報告させて頂きます。

皆様、どうぞ宜しくお付き合いの程をお願い申し上げます（2017．11.28）。

有澤辰彦氏　弔辞

深い悲しみの中で日本山岳会会員有澤辰彦さんの御霊前に謹んでお別れの言葉を申し上げます。一昨日の夕方電話であなたの訃報を聞いた時は、大変驚き本当に信じられない気持ちでした。

あなたは現在富山支部の総務委員長として、例会や役員会を開催するとともに、来年に控えた支部創立 70 周年の記念事業を進行中の矢先のことでした。8 月 11 日には「山の日」記念親子登山で高落場山に登りましたが、あの時が山でのあなたの姿を見る最後となってしまいました。

有澤さんは宇奈月町下立の出身で、魚津岳友会や富山県庁山岳スキー部で山とスキーで活躍され、昭和 49 年には富山県山岳連盟シルクロード踏査隊に参加されました。私とはこの踏査隊の時からの長いつきあいになりますが、6 人の隊員の最年少だったあなたが先に逝ってしまうとは。

日本山岳会への入会は昭和 61 年で、私とほぼ同じ頃でした。持ち前のバイタリティとアイデアで富山支部の雰囲気づくりにも一役かって支部をもりたてていただきました。酒は飲めないのに人見知りしない性格から他の支部の会員とも親しくなっていました。

特に力を入れていたのは槍ヶ岳を開山した播隆上人の生家跡で毎年開催している播隆祭のことでしたね。顕彰碑のある広場では湧水の周りの環境整備やオオヤマザクラの植樹などに力を尽くす一方で、毎年参加される「生家の会」の皆さんとの交流をとても大事にしていました。70 周年記念誌のトップに播隆上人特集を企画したのもあなたでした。来年の播隆祭に合わせた登山道整備では、高頭山の山頂に山名標柱を建てようと、張り切っていたのに残念でなりません。

近年は膝などの体調不良から激しい登山はできなくなり、毎年出かけている東北支援山行では「たまにはわしでも登れる山を計画してくれ」と言っていましたね。それで今年 7 月には早池峰山以来 5 年ぶりに一緒に福島県の安達太良山に登る機会がありました。シャクナゲの花を愛でながら「高頭山のシャクナゲ群生地の整備をしなければ」と言っていた姿が目に浮かびます。

有澤さん　長い間ありがとうございました。そしてどうか安らかにお眠りください。さようなら

（平成 29 年 10 月 17 日　公益社団法人日本山岳会 富山支部長　山田信明）

平成 29 年度全国支部連絡会議の概要

期日：12 月 2 日（土）10 時半～12 時

場所：京王プラザホテル 42F「高尾」

1. 支部における登山計画書とチェック体制について(中山副会長)

富士山（11 月)、幌尻岳（8 月）の H 支部会員の死亡事故を受け、遭難対策委員会では下記の制度上の対応策を実施することになった。

①会員が行うすべての山行について山行計画書を作成して遭難対策委員会へ提出すること。

②支部主催山行だけでなく個人山行についても、支部内に山行計画書受理機関を設けて山行の安全性を吟味するとともに、受け付けた計画書を全て遭難対策委員会へ提出すること。

2. 支部事業委員会のアンケート報告(重廣副会長)

①支部での登山教室実施の問題点としては、受講者の確保、講師・リーダー等の人材不足や高齢化、実習登山の安全確保とリスクへの対応があげられた。2018 年度から各支部に開催希望時期を問合せの上、講習会(セルフレスキュー、救急医療)、ヒマラヤ登山塾などについて 33 支部を巡回予定。

②山のグレーディング

現在 9 県で実施中。日山協、労山、自治体、観光協会等と連携して他県でも取り組んでほしい。

③登山能力の弱体化と事故を起こさないための課題

〇体力・技術・知識の三位一体が重要。安全登山の極意は、個人の現在能力に合わせた山・コース選定と判断力　〇経験豊富な会員の高齢化、支部自体にチェック機能がない　〇登山技術レベルを維持 or 高めることをめざした山行をしよう

3. 支部 HP の作成方法について（大塚 DM 委員会委員）

＊登山計画書のチェック体制の構築とその提出について

「登山計画書を作成することは登山の基本です。各支部で登山計画書のチェック体制を構築するとともに会員が行うすべての登山について登山計画書を本部遭難対策委員会へ提出することになりました。」

提出方法は「山」2 月号に同封されています。山行前の準備が万全か、計画に無理や危険がないか点検して、安全な登山を心がけましょう。　（山田信明　記）

日本山岳会富山支部創立 70 周年記念式典の開催案内　松本睦男実行委員長

１．日　時　平成 30 年 3 月 25 日（日）受付 13 時 30 分から

２．場　所　富山第一ホテル（富山市桜木町 10-10）　電話　(076)442-4411

３．内　容

（1）記念講演会　14 時から　（第 9 回山岳講演会として）

・会場　3 階　天平の間

・演題　「立山・剱岳に氷河が現存！」－富山支部ホームグラウンドの魅力―

・講師　飯田　肇氏（立山カルデラ砂防博物館学芸課長）

(2) 記念式典　15 時から　　（式典前に全員で記念写真撮影）

・会場　3 階　飛鳥の間

(3) 記念祝賀会　15 時 40 分から

・会場　3 階　飛鳥の間

・会費　1 万円　　多くの会員の皆さんの参加をお願いします。

＊＊

富山支部創立 70 周年記念寄付の報告（平成 30 年 2 月 28 日現在）

70 周年記念事業へご寄付いただいた総額は 895,000 円になりました。ありがとうございます。ご寄付いただいた方のご芳名を記載させていただきます。これまでの記念行事に多数の皆さまに参加いただくと共に、多くの方から寄付をいただき感謝申し上げます。

7 万円＝木戸繁良、5 万円＝山田信明、松本睦男、田邊隆一、永山義春、3 万円＝近藤　晋、2 万円＝藤條好夫、村上清光、鍛治哲郎、川田邦夫、金尾誠一、本郷潤一、渋谷　茂、北田幹夫、1.5 万円＝車　昭保、河合義則、森田裕子、1 万円＝佐伯郁夫、高塚武由、中西紀夫、石浦邦夫、飯田　肇、三好まき子、高瀬洋、磯部実穂、森尻悠一郎、中島　眞、森　修作、北野喜行、平田信康、高櫻英輔、中薮淳一、本多秀雄、西本隆夫、佐藤武彦、道正政信、稲垣甚一郎、高野　毅、浦井直幸、伊東保男、田邊稔雄、島津常樹、宮崎勇人、正橋立子、菅田静子、若尾　昇、野﨑裕一、藤井久一、前田充一、浦井正子、瀬川富士夫、石溪秀満、金井英子、讃井啓介、吉井一美、5 千円＝板橋　明、広瀬　弘(以上 57 名、敬称略)

会員動向

〇新入会員

・讃井啓介　さぬい　けいすけ（68 歳）11 月入会　会員番号 16273 番　福岡県春日市

九州は博多、正確に言えば福岡市南区と隣接します春日市という所に住んでおります、新幹線博多車両基地のある所です。昭和 24 年の丑年生まれです。血液型は AB 型、お寺は臨済宗東福寺派天與庵、今はここで世話人兼管理人をしております。博多駅のすぐ近くです。

現役時代は県の公務員で公安職に携わっておりました。平たく言えば警察官です。何とか懲戒免職にならず、満期 38 年を無事にお勤め致しました。運動では剣道、テニス、スキーそして、山を少々していましたが、緑内障を患ってからは「動体視力の衰え」には逆らえず、もっぱら「山」と「般若湯」の方に力を注いでおります。その「山」もペースメーカーを入れて以来「登山家」というよりも「下山家」専門になっています。これからは残る「般若湯」で頑張りたいと思っております。よろしくご指導の程を申し上げます。

〇石浦邦夫顧問（黒部市在住、88 歳）

昨年 10 月の高齢者叙勲で瑞宝双光章受章が新聞紙上に発表され、12 月に伝達があったそうです。おめでとうございました。2 月 9 日に叙勲の記念に 1 万円を富山支部親睦会へ寄付したいと石浦先生から申し出があり、親睦会会計でお受けすることになりました。

〇飯田肇会員、高塚武由会員、田邊隆一会員

昨年 11 月 26 日高志会館で開催された国立登山研修所創立 50 周年記念式典において 3 名の支部会員が功労者として感謝状を受賞されました。

〇元会員正橋剛二氏（平成 27 年 10 月没）

昨年 12 月桂書房から『入越日記―能登・越中・立山に薬草を求めて』（山本渓山著、原文は漢文の解説書）が出版された。正橋立子支部会員（故人の娘さん）から送られた本のあとがきを見ると故人の遺志を継いで出版に苦労されたことがわかります。なお巻末には正橋さんの著作目録（太田久夫氏編）が載っています。

〇渋谷茂副支部長

昨年暮れに『立山物語』を自費出版されました。立山自然保護センター（室堂）に勤務した 6 年間の日常を綴った日記をまとめたもので 413 ページの大作。

〇道正政信会員

平成 29 年度元気とやまスポーツ大賞（指導者部門）を受賞され、2 月 16 日に県庁で贈呈式がありました。

〇佐伯郁夫顧問（魚津市在住）

山と渓谷社から『分県登山ガイド 17　富山県の山』が 2 月 1 日に発行されました。今回の新シリーズは奥さんの克美さん、息子の岩雄さん夫妻の 4 人での共著。概念図が大きくなり、「コース定数」に基づく体力度と技術度が 5 段階で表示されるなど利用しやすくなっています。

〇西本隆夫会員（富山市在住）

毎年 7 月に北海道山行を続けており、昨夏も日高のペテガリ岳（1,736m日本二百名山）を単独で目指したそうです。ところが 1 日目に道に迷いビバークを余儀なくされてしまい、ヒグマに遭遇するなどしながらも冷静に対処して無事下山。「元山岳警備隊員の失敗山行ですが遭難事故防止の参考になるのでは」と体験記を支部に送られてきました。1/22 の親睦会総会時にも紹介しましたが、関心のある方は事務局へ連絡ください。

山行計画等案内

・平成30年度富山支部総会　4月18日（水）18時～　富山電気ビルで開催の予定（３月下旬に改めて案内申し上げます）

・2月17日～18日に予定されていた五支部合同スキー山行（京都滋賀支部担当、大野市・銀杏峰）が福井県の豪雪のため来年に延期となりました。

編　集　後　記

「支部創立 60 周年を迎えて」のなかで当時支部長であった木戸繁良さんは、「会員の増強と若返り」をはかり「自然の摂理と登山技術を学ぶ前向きの姿勢を忘れずに、次の 10 年に向けて進みたい」と書かれている。今年、創立 70 周年を迎える。記念事業で「幸せの国」ブータンに出かけスケールの大きい自然と異文化を存分に味わった。支部は若々しい仲間も迎えた。山行を通して改めて「登山」について多くを学んだ。次の 10 年に向けて会員同士が山を媒体として絆を深め、さらに新たな会員を迎えたいものである。　（渋谷茂　記）

公益社団法人日本山岳会　富山支部会報　第 107 号
発行者：山田信明　　編集者：渋谷茂・北田幹夫
事務局　〒939-8095 富山市大泉中町 7-52-204　河合義則方
電話　076-492-3936　　090-4326-6197　　E メール　kawa-mori55@air.ocn.ne.jp